

2020年3月10日
株式会社日本政策金融公庫

地域金融機関CLOを発行

～30の地域金融機関と連携し、中小企業者向け無担保資金供給の円滑化を支援～

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）中小企業事業は、3月10日、地域経済活性化の担い手となる中小企業者への無担保貸付債権を裏付けとするCLO（貸付債権担保証券）を発行しました。本CLOは地域金融機関、日本公庫及び機関投資家による証券化手法を活用した連携商品であり、平成28年3月の実施以降、5年連続での組成となります。

組成規模は、貸付債権額ベースで332.32億円（昨年345.96億円）、貸付社数ベースで1,793社（昨年1,693社）、参加金融機関数ベースで30機関（昨年25機関）となり、1案件当たりの貸付社数としては過去最多となりました。

背景としては、担保に依存しない貸付メニューのひとつとして、地域金融機関の利用ニーズが高まっていることや、運用難の環境下、相応の利回りを確保できる商品として、機関投資家の投資ニーズが高まっていることなどが考えられます。

なお、本CLOは昨年度に引続き2年連続でソーシャルボンド評価（※1）を取得し、最上位の格付けが付与されています。

日本公庫は、国の施策に基づく政策金融機関として、今後とも証券化手法を活用して、地域金融機関による中小企業者への無担保資金の円滑な供給を支援するとともに、中小企業CLO市場の整備を行っていきます。

<今回のCLO（シンセティック型（※2））の概要>

- ◆CLO発行日：令和2年3月10日
- ◆発行会社：合同会社クローバー2020
- ◆CLO発行額：321.94億円
- ◆当初貸付債権総額：332.32億円
- ◆貸付社数：1,793社
- ◆地域金融機関：山形銀行、七十七銀行、清水銀行、但馬銀行、北日本銀行、福島銀行、栃木銀行、長野銀行、静岡中央銀行、みなと銀行、北海道信用金庫、苫小牧信用金庫、旭川信用金庫、帯広信用金庫、福島信用金庫、朝日信用金庫、西京信用金庫、城南信用金庫、多摩信用金庫、富山信用金庫、北陸信用金庫、鶴来信用金庫、高山信用金庫、大阪信用金庫、姫路信用金庫、鳥取信用金庫、徳島信用金庫、観音寺信用金庫、熊本信用金庫、新潟県信用組合（計30機関）
- ◆A号社債：203億円（AAA）、利率「3ヵ月TIBOR+0.22%」、機関投資家が購入
- ◆B号社債：58.94億円（A+）、利率は非公表、日本公庫が購入
- ◆C号社債：60億円（AA+）、利率「3ヵ月TIBOR+0.11%」、機関投資家が購入
（C号社債は日本公庫が元利金を全額保証）

（※1）JCR（日本格付研究所）が、本スキームの社会貢献性などを評価したもの。本件は、地域金融機関を通じた中小企業者への円滑な無担保資金供給などによる地域活性化効果が評価されました。

（※2）今回実施するシンセティック型とは、証券化対象の貸付債権を譲渡することなく、クレジット・デフォルト・スワップ（CDS）契約により、貸付債権の信用リスクのみを特別目的会社（SPC）に移転させ、証券化を行う手法です。

<スキーム図>

